

生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法の日本農林規格の一部を改正する件 新旧対照表
○生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法の日本農林規格（平成 31 年 1 月 31 日農林水産省告示第 182 号）

（下線部分は改正部分）

改正後	改正前
日本農林規格JAS0009：<u>20XX</u> 生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法 Determination of the lycopene in raw tomato－Spectrophotometric method 2引用規格 次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、<u>その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している</u>。これらの引用規格は、<u>その最新版（追補を含む。）</u>を適用する。 ISO 648Laboratory glassware－Single-volume pipettes 注記1対応日本産業規格：JIS R 3505 ガラス製体積計（MOD） ISO 1042Laboratory glassware－One-mark volumetric flasks 注記2対応日本産業規格：JIS R 3505 ガラス製体積計（MOD）（略） 3用語及び定義 <u>この規格には、定義する用語はない。</u> 4測定原理 試験用試料をメタノールで洗浄してβ-カロテンを除去した後、ヘキサン/アセトン混合液でリコペンを抽出する。<u>試料抽出液を希釈し、測定溶液を得る</u>。分光光度計を用いて<u>測定溶液中</u>のリコペンを測定する。 5試薬 他に規定のない限り、分析用と認められた試薬<u>を使用する</u>。 警告試薬の使用に関して、法律上の規制を遵守することは、この規格の<u>利用者の</u>責任である。 5.1水 JIS K 0557に規定する A2 以上の品質のもの。 5.2ろ過助剤 （略） 5.3メタノール JIS K 8891に規定する特級又は同等以上の品質のもの。 5.4ヘキサン	日本農林規格JAS0009：<u>2019</u> 生鮮トマト中のリコペンの定量－吸光光度法 Determination of the lycopene in raw tomato－Spectrophotometric method 2引用規格 次に掲げる規格は、その内容の一部又は全てが、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、最新版（追補を含む。）を適用する。 ISO 648Laboratory glassware－Single-volume pipettes 注記1対応日本産業規格：JIS R 3505 ガラス製体積計（MOD） ISO 1042Laboratory glassware－One-mark volumetric flasks 注記2対応日本産業規格：JIS R 3505 ガラス製体積計（MOD）（略） （新設） 3測定原理 粉砕した試料をメタノールで洗浄してβ-カロテンを除去した後、ヘキサン/アセトン混合液でリコペンを抽出する。分光光度計を用いて<u>抽出液中</u>のリコペンを測定する。 4試薬 他に規定のない限り、分析用と認められた試薬<u>だけ使用する</u>。 警告試薬の使用に関して、法律上の規制を遵守することは、この規格の<u>使用者の</u>責任である。 4.1水 JIS K 0557が規定する A2 以上の品質のもの。 4.2ろ過助剤 （略） 4.3メタノール JIS K 8891が規定する特級又は同等以上の品質のもの。 4.4ヘキサン

JIS K 8848 に規定する特級又は同等以上の品質のもの。

5.5 アセトン

JIS K 8034 に規定する特級又は同等以上の品質のもの。

5.6 ヘキサン/アセトン混合液

ヘキサンとアセトンとを、9：1（体積比）で混合する。

6 装置及び器具

通常の実験器具及び装置のほか、次による。

6.1 電子天びん

10 mg の桁の精度ではかる機能をもつもの。

6.2 ビーカー

（略）

6.3 ガラスろ過器

（略）

6.4 ガラス棒

ガラスろ過器上で試料等を混ぜる又は押し固める際に取り扱いやすい長さ及び太さのもの。

6.5 減圧ろ過装置

ガラスろ過器及び抽出の操作で用いる全量フラスコを設置可能なる過鐘に減圧装置（例えばアスピレーター）を接続したもの。

6.6 全量フラスコ

ISO 1042 に規定するクラス A の褐色のもので、抽出及び希釈の操作に適した容量のもの。

6.7 全量ピペット

ISO 648 に規定するクラス A のもので、希釈の操作に適した容量のもの。

6.8 分光光度計

JIS K 0115 に規定する、吸収セルを固定できる吸収セルホルダーを備え、472 nm における吸光度を測定できるもの。

6.9 吸収セル

石英製又はガラス製のもの。蓋付きのものが望ましい。複数の吸収セルを使用する場合は、光学的特性が同等であることが確認されたもの。

6.10 メンブランフィルター

（略）

7 試験用試料の調製

試料のへたを除去した後、ホモジナイザー等を用いて粉碎したものを試験用試料とする。直ちに **8.2** の操作を行うか、又は試験用試料を冷凍保存する。試験用試料を冷凍保存する場合は、試験用試料の全量又は均質となるよう かき混ぜた 一部を調製後速やかにガラス製の 密栓できる 容器に入れる。冷凍保存した試験用試料は、使用前に 室温 に戻し、よく混合する。

注記 （略）

JIS K 8848 が規定する特級又は同等以上の品質のもの。

4.5 アセトン

JIS K 8034 が規定する特級又は同等以上の品質のもの。

4.6 ヘキサン/アセトン混合液

ヘキサン (4.4) とアセトン (4.5) とを、9：1（体積比）で混合する。

5 装置及び器具

通常の実験器具及び装置のほか、特に次のものとする。

5.1 電子天びん

0.1 mg の桁の精度で量る機能をもつもの。

5.2 ビーカー

（略）

5.3 ガラスろ過器

（略）

5.4 ガラス棒

ガラスろ過器 (5.3) 上で試料等を混ぜる又は押し固める際に取り扱いやすい長さ及び太さのもの。

5.5 減圧ろ過装置

ガラスろ過器 (5.3) 及び抽出の操作で用いる全量フラスコ (5.6) を設置可能なる過鐘に減圧装置（例えばアスピレーター）を接続したもの。

5.6 全量フラスコ

ISO 1042 が規定するクラス A の褐色のもので、抽出及び希釈の操作に適した容量のもの。

5.7 全量ピペット

ISO 648 が規定するクラス A のもので、希釈の操作に適した容量のもの。

5.8 分光光度計

吸収セル (5.9) を固定できる吸収セルホルダーを備え、472 nm における吸光度を測定できるもの。

5.9 吸収セル

石英製又はガラス製であること。蓋付きのものが望ましい。複数の吸収セルを使用する場合は、光学的特性が同等であることが確認されたものを 用いる。

5.10 メンブランフィルター

（略）

6 試験用試料の調製

試料のへたを除去した後、ホモジナイザー等を用いて粉碎したものを試験用試料とする。直ちに **7.2** の操作を行う又は試験用試料を冷凍保存する。試験用試料を冷凍保存する場合は、試験用試料の全量又は均質となるよう かくはんした 一部を調製後速やかにガラス製の 密栓容器 に入れる。冷凍保存した試験用試料を使用前に 冷凍庫から取り出し、常温 に戻し、よく混合する。

注記 （略）

8 手順

8.1 一般事項

光によるリコペンの分解を避けるため、直射日光及び人為的な強い光の当たらない場所で操作を行うことが望ましい。

8.2 抽出

8.2.1 一般事項

吸引ろ過時に、ガラスろ過器の目詰まり、減圧ろ過装置の吸引力が弱い等の理由によってガラス棒でろ過助剤を押し固められない場合、試料抽出液（**8.2.4.6** 参照）に水が混入して 2 相に分離し、正確に定容することが困難になるため、**8.2.2.1** に規定する操作が可能な装置及び器具を使用する。また、**8.2.2.3**～**8.2.4.6** の操作は、中断せずに迅速に行う。

8.2.2 抽出の準備

8.2.2.1 ガラスろ過器を減圧ろ過装置に取り付け、少量の水でろ過器のガラスフィルターを湿らせる。ろ過助剤をガラスろ過器に加え、ガラスろ過器の 8 分目まで水を加える。ガラス棒でよくかき混ぜた後に吸引ろ過する。ろ過助剤をガラス棒で押し固めて 5 mm～8 mm のろ過助剤層を形成する。減圧ろ過装置は常圧に戻す。

8.2.2.2 調製した試験用試料（**箇条 7** 参照）をよくかき混ぜ、約 5 g を 10 mg の桁までビーカーにはかりとる。複数の試験用試料を採取するなど、**8.2.2.3** の操作を行うまでに時間を要する場合は、試験用試料は遮光する（例えば、ビーカーにアルミホイルをかける）ことが望ましい。

8.2.2.3 はかりとった試験用試料に、ろ過助剤を **8.2.2.1** でガラスろ過器に加えた量の 1/2～同量程度加え、ガラス棒でかき混ぜる。これを、ろ過助剤混合試料とする。

8.2.2.4 ろ過助剤混合試料を **8.2.2.1** のガラスろ過器に加える。ビーカーの残さを少量の水ですすいでガラスろ過器に加え、ろ過助剤混合試料の全量をガラスろ過器に負荷する。

8.2.2.5 ガラスろ過器の 8 分目まで水を加え、ろ過助剤混合試料をガラス棒でよくかき混ぜる。この時、**8.2.2.1** で形成したろ過助剤層を崩さないようにする。

8.2.2.6 吸引ろ過してろ液を廃棄する。ろ過助剤混合試料をガラス棒で押し固めてろ過助剤混合試料層を形成する。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

注記 吸引ろ過時間が長いほど、酸素によるリコペンの分解が促進され、値が減少する可能性がある。

8.2.3 β-カロテンの除去

8.2.3.1 メタノール約 10 mL をガラスろ過器の壁面を洗いながら加え、ガラス棒で上層（ろ過助剤混合試料層）をかき混ぜる。この時、**8.2.2.1** で形成した下層（ろ過助剤層）を崩さないようにする。

8.2.3.2 1 分間静置した後に吸引ろ過してろ液を廃棄する。かき混ぜたろ過助剤混合試料をガラス棒で押し固めてろ過助剤混合試料層を再形成する。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

8.2.3.3 **8.2.3.1** 及び **8.2.3.2** の操作を更に 2 回繰り返す。

注記 **8.2.3.1**～**8.2.3.3** の操作を行うことで、試料中の β-カロテンのほぼ全量が除去されることが確認されている[4]。

8.2.4 リコペンの抽出

7 手順

7.1 一般事項

光によるリコペンの分解を避けるため、操作はなるべく弱い光の下で迅速に行い、長時間光にばく露させないことが望ましい。

7.2 抽出

7.2.1 一般事項

吸引ろ過時に、ガラスろ過器（**5.3**）の目詰まり、減圧ろ過装置（**5.5**）の吸引力が弱い等の理由によりガラス棒でろ過助剤を押し固められない場合、**7.2.2.11** の操作時までろ過助剤層中に水が残り、試料抽出液（**7.2.2.15**）中に水が混入する可能性がある。その結果、試料抽出液が 2 相に分離し、**7.2.2.15** の操作で正確に定容することが困難になるため、規定の操作が可能な装置及び器具を使用すること。ただし、リコペンが酸素により分解し値が減少する可能性があるため、ろ過助剤を押し固めた後は吸引を続けないこと。

7.2.2 抽出の手順

7.2.2.1 ガラスろ過器（**5.3**）を減圧ろ過装置（**5.5**）に取り付け、少量の水でろ過器のガラスフィルターを湿らせる。ろ過助剤（**4.2**）をガラスろ過器に加え、ガラスろ過器の 8 分目まで水を加える。ガラス棒（**5.4**）でよくかくはんした後に吸引ろ過する。ろ過助剤をガラス棒で押し固めて 5 mm から 8 mm のろ過助剤層を形成する。減圧ろ過装置は常圧に戻す。

7.2.2.2 調製した試験用試料（**箇条 6**）をよくかくはんし、約 5 g を 10 mg の桁までビーカー（**5.2**）にはかりとる。

7.2.2.3 ビーカー中の試料（**7.2.2.2**）に、ろ過助剤を **7.2.2.1** でガラスろ過器に加えた量の 1/2～同量程度加え、ガラス棒でかき混ぜる。

7.2.2.4 試料とろ過助剤の混合物（**7.2.2.3**）をガラスろ過器（**7.2.2.1**）に加える。ビーカーの残さを少量の水ですすいでガラスろ過器に加え、試料の全量をガラスろ過器に負荷する。

7.2.2.5 ガラスろ過器（**7.2.2.4**）の 8 分目まで水を加え、試料とろ過助剤の混合物をガラス棒でよくかくはんする。この時、**7.2.2.1** で形成したろ過助剤層を崩さないようにする。

7.2.2.6 吸引ろ過してろ液を廃棄する。ろ過助剤と試料の混合物をガラス棒で押し固めてろ過助剤/試料混合層を形成する。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

（新設）

（新設）

7.2.2.7 メタノール（**4.3**）約 10 mL をガラスろ過器の壁面を洗いながら加え、ガラス棒で上層（ろ過助剤/試料混合層）をかくはんする。この時、**7.2.2.1** で形成した下層（ろ過助剤層）を崩さないようにする。

7.2.2.8 1 分間静置した後にろ液を吸引ろ過して廃棄する。上層をガラス棒で押し固める。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

7.2.2.9 **7.2.2.7**～**7.2.2.8** の操作を更に 2 回繰り返す。

（新設）

（新設）

8.2.4.1 50 mL 容の全量フラスコを減圧ろ過装置に設置する。

8.2.4.2 ヘキサン/アセトン混合液約 10 mL をガラスろ過器の壁面を洗いながら加え、ガラス棒で上層（ろ過助剤混合試料層）及び下層（ろ過助剤層）両方をかき混ぜる。

8.2.4.3 吸引ろ過してろ液を全量フラスコに採取する。**8.2.4.2** でかき混ぜたろ過助剤及び試料をガラス棒で押し固める。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

8.2.4.4 **8.2.4.2** 及び **8.2.4.3** の操作を更に 3 回繰り返す。

8.2.4.5 （略）

8.2.4.6 全量フラスコを減圧ろ過装置から取り出す。室温に戻した後にヘキサン/アセトン混合液で定容し、よく振り混ぜ試料抽出液とする。調製した日に希釈及び分光光度計による測定を行うか、又は試料抽出液をガラス製の密封容器に入れて－20℃以下で保存する。－20℃以下で保存した試料抽出液を使用する場合は、使用前に室温に戻し、よく混合する。

注記 （略）

8.3 希釈

全量フラスコ及び全量ピペットを用いて、試料抽出液（**8.2.4.6** 参照）をヘキサン/アセトン混合液で 5 倍に希釈する。希釈溶液をメンブランフィルターでろ過して、測定溶液とする。**8.4** の操作を行うまで、測定溶液は遮光することが望ましい。

8.4 測定

8.4.1 一般事項

（略）

8.4.2 分光光度計条件の設定

装置の取扱説明書に従って、分光光度計の条件を設定する。測定波長は 472 nm に設定する。

8.4.3 分光光度計による測定

8.4.3.1 対照試料としてヘキサン/アセトン混合液を入れた吸収セルを分光光度計の光路に置き、吸光度を 0 に合わせる。

8.4.3.2 測定溶液（**8.3** 参照）で吸収セルを 2 回共洗いした後、測定溶液を吸収セルに入れる。

8.4.3.3 測定溶液を入れた吸収セルを分光光度計の光路に置き、吸光度を測定する。

9 計算

9.1 定量

試験用試料中のリコペン含有量 w は、次の式によって与えられる。

$$w = \frac{A \times V \times d \times 10^4}{E \times l \times m}$$

ここで、 w : 試験用試料中のリコペン含有量 (mg/kg)

A : 測定溶液の吸光度

V : 抽出 (**8.2.4** 参照) 時の定容量 (mL)

d : 希釈時 (**8.3** 参照) の希釈倍率

E : 濃度 1 %, 光路長 1 cm におけるリコペンの吸光係数, 3450[6]

l : 吸収セルの光路長 (cm)

m : 試験用試料の採取量 (g)

注記 附属書 A に示す試験室間共同実験では、 V は 50、 d は試料によって 5 又は 10 を用いた。

7.2.2.10 50 mL 容の全量フラスコ (**5.6**) を減圧ろ過装置に設置する。

7.2.2.11 ヘキサン/アセトン混合液 (**4.6**) 約 10 mL をガラスろ過器の壁面を洗いながら加える。ガラス棒で上層及び下層両方をかくはんする。

7.2.2.12 吸引ろ過してヘキサン/アセトン混合液を全量フラスコに採取する。ろ過助剤及び試料をガラス棒で押し固める。減圧ろ過装置は速やかに常圧に戻す。

7.2.2.13 **7.2.2.11**～**7.2.2.12** の操作を更に 3 回繰り返す。

7.2.2.14 （略）

7.2.2.15 全量フラスコを減圧ろ過装置から取り出す。常温に戻した後にヘキサン/アセトン混合液で定容し、よく振り混ぜ試料抽出液とする。調製した日に希釈 (**7.3**) 及び分光光度計による測定 (**7.4**) を行う又は試料抽出液をガラス製の密封容器に入れて－20℃以下で保存する。－20℃以下で保存した試料抽出液を使用する場合は、冷凍庫から取り出し、常温に戻し、よく混合する。

注記 （略）

7.3 希釈

全量フラスコ (**5.6**) 及び全量ピペット (**5.7**) を用いて、試料抽出液 (**7.2.2.15**) をヘキサン/アセトン混合液 (**4.6**) で 5 倍に希釈する。希釈溶液をメンブランフィルター (**5.10**) でろ過して、測定溶液とする。

7.4 測定

7.4.1 一般事項

（略）

7.4.2 分光光度計条件の設定

装置の取扱説明書に従って、分光光度計 (**5.8**) の条件を設定する。測定波長は 472 nm に設定する。

7.4.3 分光光度計による測定

7.4.3.1 対照液としてヘキサン/アセトン混合液 (**4.6**) を入れた吸収セル (**5.9**) を分光光度計 (**5.8**) の光路に置き、吸光度を 0 に合わせる。

7.4.3.2 測定溶液 (**7.3**) で吸収セルを 2 回共洗いした後、吸収セルに入れる。

7.4.3.3 測定溶液を入れた吸収セル (**7.4.3.2**) を分光光度計の光路に置き、吸光度を測定する。

8 計算

8.1 定量

試料中のリコペン濃度 w (mg/kg) を次の式により算出する。

$$w = \frac{A \times V \times d \times 10^4}{E \times l \times m}$$

ここに、

A : 測定溶液の吸光度

V : 抽出 (**7.2**) 時の定容量 (mL)

d : 測定溶液調製時 (**7.3**) の希釈倍率

E : 濃度 1 %, 光路長 1 cm におけるリコペンの吸光係数, 3450^[1]

l : 吸収セル (**5.9**) の光路長 (cm)

m : **7.2.2.2** の試料採取量 (g)

注記 附属書 A に示す試験室間共同実験では、 V は 50、 d は試料により 5～10 を用いた。

9.2 結果の表現

(略)

10 精度

10.1 試験室間共同実験

この試験方法の精度を判断するための試験室間共同実験が行われ、その結果は**附属書 A**にまとめられている。この試験室間共同実験から得られた値は、そこで確認された含有量範囲 (39 mg/kg～1.7×10² mg/kg) 及びマトリックス以外では適用できないことがある。

10.2 併行精度

同一とみなせる試料で、同じ試験者が同じ装置を使って、可能な限り短い時間間隔で試験して得られた 2 つの測定結果の差が**表 A.1**に示す併行許容差 (*r*) ^[2]を越えるのは、規定の操作を間違いなく行っていれば、平均して 20 回に 1 回以下であることが見込まれる^[1]。

10.3 室間再現精度

同一とみなせる試料について同じ方法を用い、異なる試験室で、異なる試験者が、異なる装置を用いて得られた測定結果の差が**表 A.1**に示す再現許容差 (*R*) ^[2]を越えるのは、規定の操作を間違いなく行っていれば、平均して 20 回に 1 回以下であることが見込まれる^[1]。

11 品質管理

試験所は、試験のための内部質管理手順をもつ。

12 試験報告書

(略)

附属書 A

(参考)

試験室間共同実験の結果

試験室間共同実験は、平成 30 年に IUPAC 共同実験ガイドライン^[3]に従って日本国内で行われ、**表 A.1**に示す統計結果が得られた^[4]。提供された及び市販のトマトのへたを除去し、その試料質量の 3 % に相当する量のピロガロール^[5]を抗酸化剤として加えて粉碎した。

粉碎物について均質性^[6]を確認し、試験用試料とした。この試験室間共同実験の主催機関である独立行政法人農林水産消費安全技術センターは、手順書及び試験用試料を参加試験室に送付した。各参加試験室は、手順書に従って、合計 12 試験用試料 (6 濃度の非明示試料を各 2 点) を試験した。

注記 リコペンは光、酸素、試料に含まれる酵素等によって分解することから、試験室間共同実験中のリコペン含有量の安定性を確保するため、試験用試料調製時に抗酸化剤を添加した。

表 A.1－試験室間共同実験の結果

試料識別	試料 1	試料 2	試料 3	試料 4	試料 5	試料 6
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
リコペン含有量の平均値, mg/kg	<u>38.57</u>	45.6	61.9	97.2	<u>118.7</u>	<u>168.8</u>

8.2 結果の表現

(略)

9 精度

9.1 試験室間共同実験

この試験方法の精度を判断するための試験室間共同実験が行われ、その結果は**附属書 A**にまとめられている。この試験室間共同実験から得られた値は、そこで与えられた濃度範囲 (39 mg/kg～1.7×10² mg/kg) 及びマトリックス以外に適切でないこともある。

9.2 併行精度

同一とみなせる試料で同じ試験者が同じ装置を使って可能な限り短い時間間隔で試験して得られた 2 つの測定結果の差が、**表 A.1**に示す併行許容差 (*r*) ^[2]を越えるのは、規定の操作を間違いなく行っていれば、平均して 20 回に 1 回以下であることが見込まれる^[1]。

9.3 室間再現精度

同一とみなせる試料について同じ方法を用い、異なる試験室で、異なる試験者が、異なる装置を用いて得られた測定結果の差が、**表 A.1**に示す再現許容差 (*R*) ^[2]を越えるのは、規定の操作を間違いなく行っていれば、平均して 20 回に 1 回以下であることが見込まれる^[1]。

10 質管理

試験所は、試験のための内部質管理手順をもつものとする。

11 試験報告書

(略)

附属書 A

(参考)

試験室間共同実験の結果

この試験室間共同実験は、平成 30 年に IUPAC 共同実験ガイドライン^[3]に従って国内で行われ、**表 A.1**に示す統計結果が得られた。提供された及び市販のトマトのへたを除去し、その試料質量の 3 % に相当する量のピロガロールを抗酸化剤として加えて粉碎した。

粉碎物について均質性^[4]を確認し、試験用試料とした。この試験室間共同実験の主催機関である独立行政法人農林水産消費安全技術センターは、手順書及び試験試料を参加試験室に配付した。各参加試験室は、手順書に従って、合計 12 試験試料 (6 濃度の非明示試料を各 2 点) を試験した。

注記 リコペンは光、酸素、試料に含まれる酵素等によって分解することから、試験室間共同実験中のリコペン含有量の安定性を確保するため、試料調製時に抗酸化剤を添加した。

表 A.1－試験室間共同実験の結果

試料識別	試料 1	試料 2	試料 3	試料 4	試料 5	試料 6
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
リコペン含有量の平均値, mg/kg	<u>38.6</u>	45.6	61.9	97.2	<u>119</u>	<u>169</u>

併行標準偏差 s_r , mg/kg	0.48	0.67	1.2	2.7	2.2	5.1
併行相対標準偏差 RSD_r , %	1.2	1.5	2.0	2.7	1.9	3.0
併行許容差 $r(r = 2.8 s_r)$, mg/kg	1.3	1.9	3.5	7.5	6.2	14
室間再現標準偏差 s_R , mg/kg	0.94	1.9	2.5	3.8	4.5	5.8
室間再現相対標準偏差 RSD_R , %	2.4	4.2	4.1	3.9	3.8	3.4
室間再現許容差 $R(R = 2.8 s_R)$, mg/kg	2.6	5.4	7.1	11	13	16

参考文献

- [1] **ISO 5725-1:1994**, Accuracy (trueness and precision) of measurement methods and results — Part 1: General principles and definitions
注記 1 (略)
注記 2 併行許容差及び再現許容差の表現について、参考文献中の“7.1.5”を参考にした。
- [2] **ISO 5725-6:1994**, Accuracy (trueness and precision) of measurement methods and results — Part 6: Use in practice of accuracy values
注記 1 (略)
注記 2 併行許容差及び再現許容差の計算方法について、参考文献中の“4. 許容差の求め方”を参考にした。
- [3] Horwitz, W., Protocol for the design, conduct and interpretation of method-performance studies, *Pure & Appl. Chem.*, 1995, **67**(2), p. 331–343.
- [4] Kakubari, S., et al., Determination of Lycopene Concentration in Fresh Tomatoes by Spectrophotometry: A Collaborative Study, *J. AOAC Int.*, 2020, **103**(6), p 1619-1624.
- [5] **JIS K 8780** ピロガロール (試薬)
- [6] Thompson, M., et al., The International Harmonized Protocol for the Proficiency Testing of Analytical Chemistry Laboratories. *Pure Appl. Chem.*, 2006, **78**(1), p. 145-196.
注記 均質性の確認方法について、参考文献中の“3.11 Testing for sufficient homogeneity and stability”を参考にした。
- [7] Britton, G., Liaaen-Jensen, S., Pfander, H. ed., *Carotenoids handbook*, Birkhauser Verlag, Basel/Boston/Berlin, 2004
注記 リコペンの吸光係数について、参考文献中の“MAIN LIST 31(Lycopene) Spectroscopic data”を参考にした。

併行標準偏差 s_r , mg/kg	0.48	0.67	1.2	2.7	2.2	5.1
併行相対標準偏差, %	1.2	1.5	2.0	2.7	1.9	3.0
併行許容差 $r(r = 2.8 s_r)$, mg/kg	1.3	1.9	3.5	7.5	6.2	14
室間再現標準偏差 s_R , mg/kg	0.94	1.9	2.5	3.8	4.5	5.8
室間再現相対標準偏差, %	2.4	4.2	4.1	3.9	3.8	3.4
室間再現許容差 $R(R = 2.8 s_R)$, mg/kg	2.6	5.4	7.1	11	13	16

参考文献

- [1] **ISO 5725-1:1994** Accuracy (trueness and precision) of measurement methods and results — Part 1: General principles and definitions
注記 1 (略)
注記 2 併行許容差及び再現許容差の表現について、参考文献中の「7.1.5」を参考にした。
- [2] **ISO 5725-6:1994** Accuracy (trueness and precision) of measurement methods and results — Part 6: Use in practice of accuracy values
注記 1 (略)
注記 2 併行許容差及び再現許容差の計算方法について、参考文献中の「4. 許容差の求め方」を参考にした。
- [3] Horwitz, W., Protocol for the design, conduct and interpretation of method-performance studies, *Pure & Appl. Chem.*, 1995, **67**(2), p. 331–343
(新設)
- (新設)
- [4] Thompson, M., et al., The International Harmonized Protocol for the Proficiency Testing of Analytical Chemistry Laboratories. *Pure Appl. Chem.* **78**(1), 145-196 (2006)
注記 均質性の確認方法について、参考文献中の「3.11 Testing for sufficient homogeneity and stability」を参考にした。
- [5] Britton, G., Liaaen-Jensen, S., Pfander, H. ed., *Carotenoids handbook*, Birkhauser Verlag, Basel/Boston/Berlin, 2004
注記 リコペンの吸光係数について、参考文献中の「MAIN LIST 31(Lycopene) Spectroscopic data」を参考にした。